

Dr. 笠井の初診所見



チェックの結果

1つでもチェックが入れば、味覚障害を疑いましょう。

食べ物の味がしない、味が薄く感じる、常に口の中で苦い味を感じている、あるいは酸っぱいものや苦いものなど特定の味がわからなくなった、など味覚の異常を訴える人が多くなっています。味覚障害の患者数は年間20数万人ともいわれます。舌の表面にある味細胞は年齢とともに機能が低下することもあり、特に50〜6代の中高年に増えています。

味覚障害の原因として、生きていく上で必要な栄養素の1つである亜鉛の不足が知られています。偏った食生活を続けていたり、胃腸障害や肝機能低下があったりすると味細胞の代謝に必要な亜鉛不足がおきて、通常は2週間で入れ替わる細胞の再生が低下して起きます。また抗うつ薬、降圧薬、抗ガン剤など、多種多

様な薬剤の副作用で亜鉛が欠乏するために、味覚障害が起きることがあります。ほかに、加齢によってだ液の分泌が不足すると口が渴いて舌炎を起こして味覚が低下したり、風邪をひいたあとに味覚障害が発症したりするケースもあります。

その原因により治療法が異なりますが、病院では口や舌の診察と血液検査や味覚検査を行った上で、多くの症例では亜鉛の内服治療が試みられます。食事の面では亜鉛を多く含有する食物や、その他ビタミンB群などの摂取が勧められます。年月を経過した味覚障害は治療を行っても回復しないことが多いため、専門医の受診や薬物療法は、発症後できるだけ早く開始することが大切です。



監修

医学博士 笠井 創

かさい はじめ

千葉大学医学部大学院卒。国保君津中央病院耳鼻咽喉科医長、国立がんセンター病院頭頸部外科医員、国家公務員等共済組合連合会/横須賀共済病院医長、千葉大学非常勤講師兼任を経て、耳鼻咽喉科気管食道科笠井クリニック開設、平成11年に笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療室開設、至現在。
◎笠井耳鼻咽喉科クリニック自由が丘診療室
〒152-0035 目黒区自由が丘1-29-14 J-フロントビル3F